

2007 年度日本交通学会第 66 回研究報告会概要

2007 年 10 月 6 日～7 日の 2 日間、2007 年度日本交通学会第 66 回研究報告会（大会）が中央大学多摩キャンパスにおいて開催されました。2 日間で延べ約 213 名の参加者があり、統一論題発表、シンポジウム、総会、自由論題発表と盛況の中、すべて滞りなく成功裡に終わる事ができました。

以下に、本大会の様子をご紹介させていただきます。

大会初日、開催に先立ち、中央大学経済学部教授塩見英治先生から、開催校を代表してご挨拶を頂きました。

今回の統一論題は、「グローバル経済下の交通インフラ」をテーマに取り上げ、国際競争力の視点からみた交通インフラの整備・運営方策、アジア域内等における地域連携に資する交通インフラの方向性と政策などの観点から、3 件の発表が午前中行われました。

午後からは、大阪産業大学経営学部教授宮下國生先生の司会のもと、国土交通省港湾局計画課長富田英治氏、日本港湾協会会長栢原英郎氏、慶應義塾大学商学部教授中条 潮先生、神戸大学経営学部准教授村上英樹先生による統一論題パネルディスカッションーパネル・テーマ「アジア・ゲートウェイ構想における交通インフラの課題」ーが行われました。

統一論題パネルディスカッションは二部構成で行われ、第一部は、各パネリストの先生方からキーノート・スピーチをして頂きました。

1. 「アジア・ゲートウェイ構想における物流効率化と貿易障壁」（栢原英郎氏）
2. 国際競争下の日本の港湾政策：法制度上の課題」（富田英治氏）
3. 「アジア・オープンスカイ構想の課題」（中条 潮先生）
4. 「国際基幹空港として期待される関西空港の課題」（村上英樹先生）

第二部は、キーノート・スピーチを受けてパネルディスカッションが行われ、①貿易障壁・空港・港湾の CIQ 問題、セキュリティの問題、②オープンスカイの評価、③ターミナル容量の確保の問題、集中投資の是非、地方港湾・空港の問題、④羽田、成田、関空、中部をどう使うか、関空二期をどう考えるか、⑤ターミナル整備・運営の効率化、民営化、⑥地球環境と国際交通など多岐に渡り、会場参加者も含め、活発かつ発展的な意見が交わされました。

パネルディスカッション終了後、総会が行われ、2006 年度の会務・会計報告の他 9 件の議題が報告され、審議を経て、すべて承認されました。総会におけるイベントとして、今年度の学会賞の授賞式が執り行われ、「著書の部」の受賞は、東京女子大学教授竹内健蔵先生（著書『都市交通ネットワークの経済分析』有斐閣、2006 年 10 月、viii+284 ページ）、「論文の部」の受賞は、（財）運輸政策研究機構大井尚司氏（論文「第三セクター地方鉄道の費用構造に関する計量分析」『交通学研究 2006 年研究年報』日本交通学会、2007 年 3 月、99-108 ページ）に、杉山会長から各受賞者に賞状と賞金が授与されました。

夕刻から、懇親会が開かれ、中央大学常務理事の辰馬信男先生から開催校を代表してご挨拶を頂いた後、この度名誉会員になられた山田浩之京都大学名誉教授から乾杯のご発声を頂き、会員相互の親睦を深める事が出来ました。

二日目は、自由論題の発表が3つの会場で行われました。
 第一会場は鉄道を中心とした論文、第二会場は道路・港湾を中心とした論文、第三会場は道路（バス）・航空を中心とした論文の発表が行われ、各会場共、活発な質疑応答が行われました。

終わりに、本大会の準備、運営に多大なるご協力を頂きました中央大学塩見先生、武蔵工業大学岡田先生はじめ、同経済学部の皆様に心から感謝申し上げます。

(事務局記)

【大会の様子（写真）】



中央大学多摩キャンパス I



中央大学多摩キャンパス II



大会挨拶（塩見英治教授）



キーノートスピーチ（栢原英郎氏）



キーノートスピーチ（富田英治氏）



キーノートスピーチ（中条 潮教授）



キーノートスピーチ（村上英樹准教授）



統一論題パネディスカッション I



統一論題パネディスカッション II



学会賞「著書の部」授賞式
 （東京女子大学竹内健蔵教授）



学会賞「論文の部」授賞式
 ((財) 運輸政策研究機構大井尚司氏)



自由論題論文発表の様子